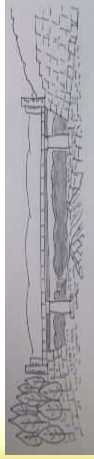


まゆだま

2010. 4. 27 発行
No. 337



連絡先：高田（栖原小学校）
東京歴教協 八王子支部

～ 2010年がスタートしました。先日行われた全国一斉学力テストは抽出型に変わったものの「ゆとり教育からの進路変更」のねらいは教科書採択や新学習指導要領の実施にも明らかなに反映されています。そんな中、現場で子どもと向き合う私達教員は、地に足をつけて教育実践を進めていくことがより大切になります。仲間と学び合う教師が、学び合う集団づくりを実現できるのです。一人でも、仲間と一緒に参加は自由です。「学びの共同体」を目指して、今年も八王子支部の活動への御協力をよろしくお願い致します。月に1度、土曜日午後10時に高尾へ。皆様のお越しをお待ちしております。～

4月の例会報告

41年ぶりの4月中旬の雪！で中央線もダイヤが乱れ開催された例会でしたが、午後には晴れて一安心。お茶菓子に柏餅ときびだんごが並んだ4月例会。（こういう季節感も大切ですね）年度はじめの忙しい時期でしたが、ベテランに混じって教職2年目・3年目という若手も先輩に連れられて初参加！雪景色を吹き飛ばす熱気があふれました。



○ 「どうなる？ これからの教科書」 ○
4月の例会は、前事務局長の栗原さんによる学習講座からスタートしました。新指導要領と教科書検定の問題をどう見るか。こういう教育時事問題にもアンテナが必須です。とはいえ、なかなか新聞や教育雑誌にまで気が回らないのも現実です。八王子支部の例会ではそういう時代にも配慮して、「情報の共有化」を目指しています。この日参加した若い先生達も配られた資料をみて、栗原さんの解説に、真剣な顔でペンを走らせていました。

- 教科書検定により、何が変わったのか、問題は何か
 - ①検定意見が倍増し、教科書はページ数が増加した（平均で25%程度）
 - ②「ゆとり教育」からどう変わっていったのか・・・子どもの教育格差拡大
 - ③愛国心・道徳心・公共の精神・伝統文化の掲載（全部の教科書に）
 - ④教育委員会による教科書採択の脅威など
- ほか、いろいろな解説がありました！

”先生もお互いに学びたいと成長しないんですよ” っていうのが例会の大切なところ！

○ 「地域に学ぶ生活科」 ～地域のヒト・モノ・コトに学ぶ生活科～

1992年から一斉に実施された低学年の生活科。そろそろ自分が低学年の頃に生活科を体験して教師になったという人も出てくる時代になりました。この教科は、導入当初から体験重視がさげられており、「生活科＝体験＝遊び」という認識の人や、反対に「科学的要素の不足」を指摘する人も多くいます。現行の学習指導要領では、小学校の生活科の目標を次のように掲げています。

「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」

今回の講師の浦沢先生は、歴教協の考えにある地域に根ざすというのとはどういうことかを考えながら、「地域に学ぶ生活科」についてお話くださいました。



1. 子どももにとって地域とはなにか
石井重雄さんの著「地域に学ぶ社会科」にそって、浦沢先生が地域をどのように考えているかを伺いました。まずは教師が自分の学校の地域をしつかりと把握することが大切だと強く感じるお話になりました。「互いに主権者と一ズは低学年時代に自立の基礎を作るために、低学年担当教師にこそ必要な視点なのですね。

トマト作りの三ツ木さんから教えていただき、子ども達と作り上げたトマト棚。趣味の園芸ではない地域の生産労働の知恵と工夫が詰まっていることがわかりました。



講師の先生の話には今後につながる内容がたくさんあっていて、参加者は聞きながらメモをとり続けるのに一生懸命でした。このメモが明日の授業に活かせるかも？

2. 地域に学ぶ生活科 < 7つの視点 >

- < 1 > 地域の自然から学ぶ
実践例：アサガオ・枝豆から大豆へ
- < 2 > 地域の生き物から学ぶ
実践例：ザリガニ、アイガモ
- < 3 > 地域の生産労働から学ぶ
実践例：小麦作りの今井さん、トマト作りの三ツ木さん、葡萄園の榎本さん
- < 4 > 地域の文化（知恵）に学ぶ
実践例：みそ・わた・干し柿・紙すき 作り
- < 5 > 学校の昔から学ぶ
実践例：開校記念日によせて（保護者作文集）
- < 6 > 人間（ヒト）から学ぶ
実践例：私が大きくなるまで、しごと
- < 7 > 見えるモノから見えないモノを学ぶ
実践例：種の中身は？なぜ○○するの？

こうして、浦沢先生の低学年の実践を聞き、参加者からもたくさんさんの質問が出されました。ここまで、あつという間の1時間半でした。

3. 生活科の学習で大事にしたいこと

- ①本物か本物に近い価値に出会う
- ②事実をしっかりと見つける
- ③子どもとの問いを育てる
- ④気づきやつづきやぶきやを大切にすること
- ⑤知識の変容を記録に残す
- ⑥クラスまたは学年で学びの共有をすすめる
- ⑦一人ひとりが大切にされる学級づくり



手ごとの一つとして、参加者全員で指編みに挑戦しました。簡単そうでも難しそう。今年初めて1年生の担任になった若手の先生もこれは身に付けて帰ろうと必死！



こちらの先生は6年生担任。必死に覚えて帰りました。そしてすぐ次の授業で指編みを実践。何と、縄文時代の授業の導入に活かしたとか。ベテランならではの味！

今回は生活科のお話でしたが、浦沢先生の提示してくだだったこの「大事にしたいこと」はどの教科にもどの学年にも通じることですね。

4. 手ごとのすすめ

- ①紙でつぼう
広告チラシなどがあればおすすめです。大人は、ストレス発散に最適！思い切り”ばーん”って！！
- ②手あみ
指に毛糸を巻いてさあちヤヤレンジ！できあがったマフラーに合わせて色目を考えた洋服選びをしたきた強者（つわもの）もいたとかいないとか。
- ③あんざん（編布）
縄文時代の遺跡からも出土している古い折り方です。割り箸やストローでもできるので準備も簡単です。これ、おそぼ屋さんでも見ますよな。

最後に子どもも喜んで参加し、手を使う学びにもなるという3つの手しごとを参加者全員で体験しました。これなら「自分不器用ですから・・・」っていう人もできますよな。

.....
こうして、浦沢先生の生活科の実践報告は幕を閉じました。先生からです。「今日はこうして八王子の例会に呼んでくださってありがとうございます。ありがとうございました。授業作り講座ということで若い先生にお伝えすることがあるのは嬉しい限りです。例会の和やかで暖かい雰囲気がいいですね。またどこかでお会いするのが楽しみです。生活科のレポートをもって研究会に、全国大会において下さい。」

○ 参加者の皆さんより ○

★低学年の子どもの生き生きとした姿が目に見えようなお話に感激しました。どの実践も生きる根拠につながる話で、単なるやらせではなくなることがよくわかりました。理論の裏付けがある実践は、子どもの心を育てると感じました。そしていつまでも子どもたちの声を聞き、そこからまた新たな実践を積み重ねる浦沢先生の素晴らしさに頭が下がりました。今日はありがとうございました。

★これから学校の中や地域を大切にしていきたいと思いましたが、具体的な実践のお話を聞いてとても勉強になりました。子ども達の何気ないつぶやきや、疑問などを大切にしていきたいです。本日は、ありがとうございました。

★浦沢先生の実践は何回聞いてもスゴイ！（スゴイの一言で片付けてスミマセン）ミニトマト、アイガモ、みそ作り、身近な野菜から生活に必要なものに作り替える農家に、人に話を聞かずに、本物に出会う。各種野菜からいろいろな染め物や葉書作りもすごい。ミニトマトの等身大以上の絵に、「やはり、これくらいかかせないだめなんだ」と再発見。指あみ、あんざんあみは、私は不器用なため途中まででしたが、また一つ教える教材が増えうれしかったです。

★生活科に一つのお話では、子ども達の豊かな感性を感じることができました。また、私も知らなかつたことをいろいろ知ることができ、とても勉強になりました。手あみを含め、学んだことを、とどどん授業に活かしていきたいと思えます。今日は、有り難うございました。

★本物に触れさせることの大切さを強調されたことに全く同感です。子ども達の心をゆさぶる数々の実践例をお聞きし、私も豊かな気持ちになることができました。手あみの実習も楽しかったです。ボケ防止のために、家に帰って復習してみます。ありがとうございました。

★地域の自然から学ぶということ、大変貴重な実践をお聞きし、たくさんの感動をいただきました。子ども達の疑問を大切に、それからも学校や家庭で育てていかなくてはならないと思えます。今、現場で働いている先生方は、土・日も無いような忙しさと聞きませんが、子ども達のため教材の準備などが出来る時間が是非ほしいと思います。今日の例会で教えていただいた指編み、あんざん編みは、とても楽しかったです。

★こういう実習が入った例会も楽しかったです。もちろん「人認識」や「事実認識」の大切さもしっかり理解しました。出会わせ方、発展させ方等のさすががベテラン。学校にもどったら素敵にできた指編みマフラーを見せびらかしながら、新採の二人にこのレポートをじっくり説明します。もう自分ではできませんが、葡萄実習やってみたいなあ。久々に参加してたくさん笑って元気が出ました。職員会が終わったら、紙鉄砲を音良く鳴らしてみますね。ありがとうございました。

★長い間の実践に裏付けされた生活科のレポートは、一つ一つが子ども達の顔や声が浮かんでくるようで、引き込まれていきました。編み物は何年生でも応用できそうですね。若い二人の先生も参加してくれて、いい気分でのスタートができました。浦沢先生に、感謝！！です。

—5月例会のご案内—

5月例会「小学校5年生の社会科の1年間」

講師：坪井 多愛子さん（公立小学校教諭・八王子支部会員）
日時：2010年5月15日（土）14:00～16:30
場所：浅川市民センター（JR高尾駅北口より徒歩8分）

新年度が始まり、1年間の授業をどう進めていくのかと悩んでいる方も多いと思います。5月の例会では、今年度も引き続き公立小学校で若手育成に励む坪井先生に、40年に及ぶ教育実践の中から、具体的に5年生の産業学習をどう考えていくかを紹介していただきます。坪井先生は歴教協の「社会科授業作り講座」の講師も務められているベテラン教師。美しい笑顔と裏め上手な話術はきっと勉強になります。今回の例会でも、日々の授業のツボから教師の心得、子ども理解、保護者対応、管理職や同僚とのつき合い方まで幅広いアドバイスが受けられます。どうぞ、この貴重な機会をご活用ください。